

文学部教員研究活動一覧

(2023年度)

石田 友梨

著書

1. 須永恵美子・熊倉和歌子編著『イスラーム・デジタル人文学』人文書院、2024年2月、272頁（石田友梨、第8章「五線譜のデジタル化—クルアーン第1章第2節を例に—」204-233頁）

論文

1. 「TEIとRDFを用いたアラビア文字伝記資料のデータ化の試み—イブラーヒム・クーラーニーの伝記を例に—」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』第57号、2024年3月、1-20頁
2. 中川奈津子・岡田一祐・永崎研宣・北崎勇帆・王一凡・曹芳慧・藤原静香・塚越柚季・小川潤・片倉峻平・左藤仁宏・王雯璐・石田友梨・宮川創・佐久間祐惟・塩井祥子・井上慶淳・村瀬友洋・関慎太郎・嵩井里恵子・渡邊真儀・中町信孝・幾浦裕之「日本語方言談話資料のTEIによる構造化の試み」、『じんもんこん2023論文集』2023巻、2023年12月、83-90頁

研究発表

1. 「デジタル活用による多文化共生推進—「イスラム教」ではなく「イスラーム」への理解を目指して—」、名古屋大学「デジタル人文社会科学研究推進センター」設置記念シンポジウム「AIで切り拓く人文学の未来」、2024年3月28日、名古屋大学

2. 「デジタルヒューマニティーズと文化多様性—アラビア文字資料研究の視点から—」、人文学林シンポジウム「デジタルヒューマニティーズの現在(いま)—方法論的学際性にもとづくデータ駆動型の人文学の追求へ向けて—」、2024年3月6日、大阪大学
3. 阿部匡伸・石田友梨「岡山大学におけるデジタルヒューマニティーズ教育の実績と展望」、国際シンポジウム「デジタル・ヒューマニティーズと研究基盤—欧州と日本の最新トレンド—」、2023年11月18日、東京ビッグサイト
4. “Transition of Intellectual Centers in the Arab World in the 17th and 18th Centuries,” Pacific Neighborhood Consortium (PNC) Annual Conference and Joint Meetings, 3 November 2023, University of the Ryukyus.
5. 「データセットの利用事例の紹介と要望「テキストデータ」」第3回人間文化研究機構DH研究会「DHデータ基盤としてのデータセット—利用と提供から考える—」、2023年9月20日、オンライン
6. 「イスラームにおけるAIの利活用」、日本宗教学会第82回学術大会、2023年9月9日、東京外国語大学
7. 「アラビア語伝記資料からの固有表現抽出」、岡山大学AI・数理データサイエン

スセンターCypher(サイバーフィジカル
情報応用研究推進部門)研究会、2023年
8月30日、岡山大学

8. Yuri Ishida, Kensuke Baba and Takahiro Baba, “Named Entity Recognition in Pre-modern Arabic Biographical Texts,” Alliance of Digital Humanities Organizations (ADHO) Digital Humanities Conference 2023 (DH2023), 12 July 2023, The University of Graz.

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「パネルの主旨とまとめ(パネル「AI実用化後の社会における宗教の学習と教育」)」、『宗教研究』第97巻別冊、2024年3月、28-29頁
2. 「イスラームにおけるAIの利活用」、『宗教研究』第97巻別冊、2024年3月、25-26頁
3. Yuri Ishida, Kensuke Baba and Takahiro Baba, “Named Entity Recognition in Pre-modern Arabic Biographical Texts,” Anne Baillot, Walter Scholger, Toma Tasovac and Georg Vogele eds., *Digital Humanities 2023: Book of Abstracts*, Version v2, 27 July 2023, pp. 555-556.
3. 植村玄輝, 「フッサールの価値論——ブレントラーノの継承と批判という観点から」, 『20世紀初頭価値哲学の反自然主義——現代価値論の再考のために』, 2023年, 19-33頁。
4. 植村玄輝, 「見渡し・無価値化・自己統制——フッサール『『改造』論文』における倫理的な生の発生的現象学」, 『立命館哲学』第35集, 2024年, 1-34頁。

研究発表

植村 玄輝

論文

1. 植村玄輝, 「コンラート＝マルティウスの現象学的實在論」, 『プロセス思想』第22号(2022), 2023年, 49-63.
2. Genki Uemura, “Community and the Absence of Hostility. Interpretation and Defense of Gerda Walther’s Account.” *Phainomenon. Journal of Phenomenological Philosophy* 35 (1), 2023, 25-46.
3. 植村玄輝, 「フッサールの価値論——ブレントラーノの継承と批判という観点から」, 『20世紀初頭価値哲学の反自然主義——現代価値論の再考のために』, 2023年, 19-33頁。
4. 植村玄輝, 「見渡し・無価値化・自己統制——フッサール『『改造』論文』における倫理的な生の発生的現象学」, 『立命館哲学』第35集, 2024年, 1-34頁。
- 研究発表
1. Genki Uemura & Toru Yaegashi, “Husserl’s Kaizo Articles in Japan. A Failed Attempt?” Husserl’s Ethics and Social Philosophy in Context. The Kaizo Articles Centenary Conference, Okayama University, 4 May, 2023.
2. Genki Uemura, “What is Wrong with Husserl’s A Priori Ethics?” Husserl’s Ethics in Context. Kaizo Articles Centenary Conference II, KU Leuven, 12 September, 2023.
3. Genki Uemura, “Constructing an Ideal. Husserl on the Best of All the Possible Worlds.” Phenomenology Imagination, Intuition and Modality, Università degli studi di Padova, 15 September, 2023.
4. 植村玄輝, 「対象として構成された生の全体——フッサール『『改造』論文』における倫理学と現象学」, 立命館大学哲学学会大会, 立命館大学衣笠キャンパス, 2023年11月4日。
5. Genki Uemura, “Edith Stein on Motivation and Its Limits” Motivation and Time, Online conference held by University of Cyprus, 12 January, 2024.

6. Genki Uemura, "From Neo-Kantianism to Phenomenology: Yamauchi Tokuryū's Reception of Husserl." *La phénoménologie et "l'oubli" du Japon*, Université de Strasbourg, 25 March 2024.

大久保 範子

論文

1. 「勸進相撲と江戸の名力士たち」、『歴史研究』710号、2023年4月、24-35頁
2. 「文献・絵画資料にみる力士の手形に関する記録について」「庶民信仰と浮世絵」報告書、2024年3月、3-26頁

研究発表 その他

1. 「力士と手形—記録と魔除けの視点から—」、文明動態学研究所マンスリーセミナー、2023年9月27日、オンライン

その他

1. 「浮世絵にみる江戸の庶民文化と相撲」、中山道広重美術館連続講座、2023年5月13日、中山道広重美術館
2. 「庶民信仰と浮世絵」報告書、2024年3月、岡山大学日本美術史研究室
3. 「浮世絵にみる江戸の暮らしとグルメ」、岡山中央ロータリークラブ 第1724回例会 2023年10月20日、グランヴィア岡山
4. 「浮世絵にみる江戸庶民の暮らし」、建部大学、2023年10月27日、建部町公民館

川野 恵子

著書

1. 川野恵子『身体の言語——18世紀フランスのバレエ・ダクシオン』水声社、2024年2月、314頁。

研究発表

1. « Paragone des arts chez Diderot », *Groupe de recherche en histoire des sociabilités - GRHS*, l'UQAM, 6/2023.

Groupe de recherche en histoire des sociabilités - GRHS, l'UQAM, 6/2023.

2. « Croisement de la théorie de l'inversion et de la théorie de l'imitation : L'esthétique de Diderot et sa critique de Batteux », *16th International Congress on the Enlightenment*, International Society for Eighteenth-Century Studies (ISECS), Tor Vergata University of Rome, 7/2023.
3. 「ディドロ言語論と美学」『17-19世紀ドイツ・フランス・イギリスの言語論と美学』研究会、オンライン、2024年1月20日。
4. 「ディドロ『サロン』におけるidée概念」『フランス近世の〈知脈〉第10回研究会』大阪大学／オンライン、2024年2月11日。

その他（翻訳、事典項目、書評等）

〔翻訳〕

1. 「『文芸通信』に掲載されたディドロ美術論の翻訳：「ウェブ氏による絵画に関する著作」、「ブーシャルドンと彫刻について」（1763年）」『名古屋大学人文学研究論集』第7号、名古屋大学人文学研究科、2024年3月、409-427頁。
2. 「ディドロ『聾啞者書簡』翻訳（3）」『美学芸術学論集』第19号、神戸大学芸術学研究室、2024年（印刷中）。
3. 小穴晶子、戸高和弘、川野恵子「デュボス『詩画論』第三部翻訳（3）」『文芸学研究』第27号、文芸学研究会、2024年3月、78-99頁。
4. 「翻訳：ギー・クールズ、キャロリーヌ・レイモン執筆「モントリオールとケベックにおけるダンス —世代間にまたがる継承」」『日仏演劇協会会報』復刊第12号、日仏演劇協会、2024年3月、3-14頁。

[書評]

5. 「書評：森立子著『ノヴェール「舞踊とバレエについての手紙」(1760年)全訳と解説』『舞踊学』第46号、舞踊学会、2024年3月、59-60頁。

[報告]

6. 「2023年フェスティヴァル・トランスアメリカ鑑賞記 ―モントリオール舞台芸術祭」『日仏演劇協会会報』復刊第12号、日仏演劇協会、2024年3月、70-73頁。

[社会貢献活動]

7. 『名大発アカデミックフラッシュ 第24報』「芸術作品とは何か：18世紀における芸術家と哲学者」名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部、アカデミックフラッシュ実行委員会、2023年7月25日。

京 健治

論文

1. 「並列助詞「や」の成立の経緯に関する覚書」、『岡大國文論稿』52号、2024年3月、30-44頁

研究発表

1. 「助動詞「うず(る)」に関する一考察―「ウズ」「ウズル」の消長試論―」、2023年度文学部プロジェクト研究報告会(プロジェクト名:「ことば」がつなぐ人文学／代表 宮崎和人)、2024年3月26日(火)、岡山大学文学部会議室

久保 蘭愛

論文

1. 「文献に基づく方言研究の方法」『方言の研究』第9巻、2023年7月、195-218頁

研究発表

1. 「方言文献としての『薬師瑠璃光如来本

願功德經 直読訓点 完』について」、岡山大学国語国文学会、2023年12月23日、オンライン

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「学界展望 日本語の歴史的研究 2023年1月～6月」、花鳥社、<https://kachosha.com/a-review2024011801/>

栗林 裕

研究発表

1. Türkçe ve Japoncada kısa dil ifadeleri ve kültür. (Online Conference Invited Speaker. The Research and Implementation Center for Cultural Communication Studies, Adana, Turkey, Çukurova University, 令和5年5月29日) 2023 [招聘]
2. Contrastive analysis of ol/bol- expression in Turkic languages –A new approach for comparison–. Paper presented at 23rd International Conference on Turkish Linguistics. (2-4 August 2023, Mainz, Germany, Johannes Gutenberg University Mainz) 2023.
3. 「ナル的表現と言語類型論」ワークショップ:「ナル的表現」の通言語的研究から見えること. 日本認知言語学会第24回全国大会 令和5年9月2日 桜美林大学 2023.
4. 「トルコ語とチュルク諸語のナル的表現と言語のタイプ」東アジア日本研究者協議会第7回国際学術大会パネル 令和5年11月5日 東京外国語大学 2023.
5. Linguistics Education at Okayama University. International round table on the topic «Innovative model of training philologists in higher education», dedicated

to the 60th anniversary of Doctor of Pedagogical Sciences. KAZAKH NATIONAL WOMEN'S PEDAGOGICAL UNIVERSITY. (Online Conference 令和5年12月26日) 2023 [招聘]

6. 「トルコ語の限定性再考 ～決定木分析による試論～」2023年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」(東京外国語大学本郷サテライト 令和6年3月24日) 2024. その他(翻訳、事典項目、書評等)
1. Linguistics Education at Okayama University. *Bim Times* No. 11 (80) 2023, pp.21-22, 2023. (カザフスタン共和国学術ジャーナル)

竹島あゆみ

研究発表

1. 「小井沼広嗣『ヘーゲルの実践哲学構想』—第五章と第八章を中心に」、日本ヘーゲル学会第34回大会、2023年6月3日、宇都宮大学
- その他(翻訳、事典項目、書評等)

翻訳

1. 山脇雅夫他監訳『ヘーゲル全集：自筆講義録II(1816-31)；II(第16巻)』知泉書館、2023年7月、564頁、(竹島あゆみ、「哲学史緒論(1820)」、34-69頁)

田中 共子

著書

1. 田中共子『異文化間ソーシャルスキル研究の最前線』ナカニシヤ出版 2024.3 全207頁
2. 一般社団法人日本心理学諸学会連合心理学検定局編『心理学検定公式問題集[2024

年版] Part1 2023年検定CBT出題例と解説』実務教育出版 2024.10 全413頁(田中共子 9.健康・福祉)

3. 高濱愛・田中共子『派遣留学生の再適応とキャリア形成の支援—帰国後教育における自助グループ活動の開発と実践—』東信堂 2023.8 全198頁
4. 一般社団法人心理学諸学会連合心理学検定局編『心理学検定 専門用語&人名辞典』実務教育出版 2023.6 全414頁(田中共子 ACTH、BMI、cure/care、DMAT、DPAT、EBP、HLC、NBM、NIOSH職業性ストレスモデル、FPA、アドヒアランス、アンガーマネジメント、ウエルビーイング、エイジズム、オタワ憲章、回想法、学校ストレス、がん、冠動脈性心疾患、キャプランの予防モデル、共生社会、健康格差、健康教育、健康寿命、健康信念モデル、健康心理アセスメント、健康生成論、健康日本21、高血圧、行動パターンタイプAなど)、計画的行動理論、コーピング、呼吸器系疾患、コルチゾール、産業ストレス、自己実現、仕事の要求度—コントロールモデル、仕事の要求度—資源モデル、自殺・自死予防、主観的健康観、主観の幸福感、首尾一貫感覚(SOC)、受領行動、食育、神経生理学的アセスメント、ストレスの認知的評価、ストレスホルモン、ストレスマネジメント、ストレッサー、生活習慣／生活習慣病、生活の質(QOL)、性的マイノリティ、性の健康・権利、性暴力、セルフヘルプ・グループ(自助グループ)、総合的健康教育プログラム(KYB)、ソーシャルキャピタル(社会資本)、ソーシャルサポート、多様性の尊重、デイリーハッ

スルズ、疼痛、トランスアクションナルモデル、トランスセオレティカル・モデル、ハーディネス、汎適応症候群、避妊教育、不眠／不眠症、プリシード・プロシードモデル、平均寿命、ヘルスコミュニケーション、ヘルスリテラシー、メタボリックシンドローム、免疫系、有病率、ライフイベント、楽観主義／悲観主義、リアリティ・オリエンテーション、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、リラクゼーション技法、レジリエンス)

論文

1. 三宅沙侑美・田中共子「利用者が介護士へ信頼感を抱く場面に関する質的研究—介護士の対人関係形成能力の向上のための心理教育法開発に向けて—」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』57、2024.3、111-126
2. 迫こゆり・田中共子「COVID-19に見舞われた日本人留学生のこころの危機と立て直し」『留学生教育』28、2023.12、59-69
3. 高濱愛・田中共子「ポスト留学のケアとキャリアサポート—2022年度前期一般教養科目「海外留学フォローアップ演習」における留学経験者向け帰国後教育の取り組み—」『昭和女子大学紀要』、974、2023.12、36-49
4. Tomoko Tanaka, "Record of Keynote Speech at ECKLL XI 2023: Cross-Cultural Contact and Cross-cultural Social Skills." *11th Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature, Proceedings*. 2023.11 Online
5. 中野祥子・田中共子「社会通念と外国人への対応に焦点をあてた異文化間ソーシャルスキル学習—在日留学生を対象とした個別セッションの試み」『山口大学 大学教育』20、2023、20-29
6. 畠中香織・山本恵美子・田中共子「ケア現場で働く在日外国人ケア労働者と日本人スタッフの協働文化の構築に向けて」『地域ケアリング』25(9)、2023.8、47-49
7. Yuri Okunishi & Tomoko Tanaka, "Difficulties and Coping Behaviors in Interpersonal Relationship Formation among Japanese Students in France: Implications for Cross-Cultural Social Skills for Studying Abroad in France." *Journal of Culture and Values in Education*, 6(2), 2023.6, 66-84
8. Emiko Yamamoto, Kaori Hatanaka & Tomoko Tanaka, "Collaborative approach to safety in nursing homes: Perspectives of caregivers and nurses." *The Asian Conference on Cultural Studies (ACCS2023), Official Conference Proceedings*, 2023

研究発表

1. ZHAO Shizhe, OZEKI Miki and TANAKA Tomoko, "Examination of the Cultural Awareness Scale for Border Crossers: Long-term Chinese Residents in Japan." *International Society for the Study of Chinese Overseas (ISSCO) Regional workshop: "Chinese Overseas: Integration, Identities, and Transnational Connectivity,"* 2023.12.9, Bangkok, Indonesia,
2. 三宅沙侑美・田中共子「デイサービス利用者は介護士とどのように信頼関係を構築しているのか—M-GTA による仮説モ

- デルの生成—」日本健康心理学会第36回大会 2023.12.3 神奈川大学みなとみらいキャンパス
3. 山本恵美子・畠中香織・島井哲志・浦田悠・田中共子「介護現場で働く看護師・介護職における強みとME-Work-幸福感を高めるポジティブ心理学的アプローチの活用に向けて—」日本健康心理学会第36回大会 2023.12.3 神奈川大学みなとみらいキャンパス
 4. Tomoko Tanaka, “Keynote Speech: Cross-Cultural Contact and Cross-cultural Social Skills.” *11th Enrichment of Career by Knowledge of Language and Literature*. 2023.11.18 Indonesia, Online
 5. 高浜愛・田中共子「ポスト留学の留学生教育の実践—帰国後ケアとキャリアサポートのためのフォローアップ—」第28回留学生教育学会年次大会 2023.9.2 東京外国語大学 オンライン
 6. 趙師哲・尾関美喜・田中共子「文化変容方略と超越志向に関する探索—日本における中国出身長期滞在者の事例から—」多文化関係学会第22回年次大会 2023.9.9 北九州国際会議場
 7. 中野祥子・田中共子「逆カルチャーショックにおける維持モデルの事例的検討—留学帰国後の困難と支援に関する調査から—」異文化間教育学会第44回大会 2023.6.10-11 東京都立大学南大沢キャンパス
 8. Hatanaka, K., Yamamoto, E., Yamano, Y., & Tanaka, T., “Effects of Intercultural Care Training for Japanese Care Workers Based on Actual Work Environment: Building a Culture of Collaboration with Foreign Care Workers in Japan.” *The 13th Asian Conference on Cultural Studies (ACCS)*, 2023.5.19-22, Online
- 田中 秀和**
論文
1. Hidekazu Tanaka, Verb echo answers and ellipsis operations: A reply to Sato and Hayashi (2018), *Syntax*, Published online on 25 March, 2024, <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/synt.12274>
- 研究発表
1. Die Altogether with Light Verbs, Okayama Linguistics Forum, May 25th, 2023, Notre Dame Seishi University
- 都島 梨紗**
研究発表
1. 尾川満宏・都島梨紗・知念渉、「新居浜太鼓祭りはどのように次世代に継承されているか——地域と学校の互恵関係に注目して」、日本社会学会、2023年10月8日、立正大学
 2. 都島梨紗、「少年院における少年の犯罪者化とその構造」、日本犯罪社会学会、2023年10月14日、立正大学
- その他（翻訳、事典項目、書評等）
1. 都島梨紗、書評「『闇バイト』に関わる者とは—巧妙に隠蔽された若者のリスク—」（3514）、2023年11月、44
- 土口 史記**
論文
1. 「秦令文本修訂考——以岳麓秦簡《尉郡卒

令》為例」、『法律史訳評』11号、2023年11月、150-164頁

研究発表

1. 「渡辺信一郎『中国古代国家論』を読むー「帝国」と「天下型国家」を中心にー」、アジア史連絡会第13回研究会、2023年12月23日、中央大学多摩キャンパス
2. 「王鳴盛『十七史商榷』卷三十七「臺閣」訳注——大学院演習の経験共有を兼ねて」、アジア史連絡会第12回研究会、2023年6月3日、神戸市外国語大学・大学共同利用施設UNITY特別会議室

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「（書評）渡辺信一郎著『中国古代国家論』」、『文明動態学』3号、2024年3月、308-314頁
2. 太田麻衣子・土口史記・西真輝・宗周太郎・劉聰・林怡冰・宮宅潔「嶽麓書院所藏簡《秦律令（貳）》譯注稿 その（一）」『東方学報（京都）』98冊、2023年12月、97-155頁。
3. 「新発見の資料が語る秦の制度」『山川歴史PRESS』17号、2023年12月、1-5頁
4. 「王鳴盛『十七史商榷』卷三十七「臺閣」訳注」『岡山大学文学部紀要』76号、2023年12月、61-72頁。

堤 良一

著書

1. 閻琳・堤良一『レポート・卒論に役立つ日本語研究のための統計学入門』くろしお出版（総ページ数248頁）2023年5月10日

論文

1. 堤良一（2023）「『訂正』課題のポイント」俵山雄司（編）『自由に話せる会話シラバス』pp. 141-161, 2023年4月、くろしお出版

中尾 知代

研究発表

1. オンライン講演会 演題：「戦争のトラウマー元捕虜とその家族のPTSD」～オーラルヒストリーを通して見えて来たもの～ POW研究会主催 2023年2月25日
2. 招待講演 平和のための戦争展 日本史学会主催 「第二次大戦の残した課題——連合軍元捕虜と家族の心の傷」 2023年8月5日
3. 招待講演 「証言とスケッチ画で蘇る”南方抑留”の苦難 敗戦後東南アジアに抑留された日本兵」 おもちゃ映画ミュージアムおよび同志社大学JoMA共同開催 2023年12月2日

その他

報告書

1. 第二次大戦の残した課題ー連合軍元捕虜と家族の心の傷」日本史研究（736）pp. 60-61 2023年10月

袴田 玲

著書

1. 「キリスト教と女性」研究会編、袴田玲、村上寛、坂田奈々絵、阿部善彦、鶴岡賀雄、寒野康太、宮本久雄著『西方キリスト教の女性 その霊的伝承と雅歌の伝統』教友社、2023年4月、261頁

論文

1. 山田望、坂田奈々絵、袴田玲、山田順「古代・中世キリスト教における〈女性〉イメージの多様性」、『キリスト教史学』77号、2023年7月、3-20頁

研究発表

1. 袴田玲「〈シンポジウム：宗教と哲学のはざまー東方キリスト教と新プラトン主

義) 提題3: ニケフォロス・グレゴラス『シュネシオス「夢について」註解』、新プラトン主義協会、2023年9月16日、南山大学

2. 袴田玲「ビザンツ帝国の宗教と人々」、就実大学公開学術講演会(史学会)、2023年12月2日、就実大学(招待講演)

東野 将伸

著書

1. 多和田雅保・牧原成征編『日本近世史を見通す5 身分社会の生き方』吉川弘文館、2023年10月、216頁(東野将伸「高利貸しか融通か」123-147頁)

論文

1. 「近世後期～明治期における山間部豪農の経営とネットワークー備中国川上郡宇治村仲田家文書の紹介を兼ねてー」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』57号、2024年3月、(1)-(19)頁

研究発表

1. (講演)「オープニングトーク」、令和5年度企画展 池田家文庫絵図展「岡山藩の郡・村と藩政」オープニングトーク、2023年10月、岡山シティミュージアム
2. 「幕末維新期の地域経済と領主ー畿内・近国地域を中心にー」、明治維新史学会11月例会、2023年11月、オンライン
3. 「セスキ炭酸ソーダ溶液を用いた固着文書資料のクリーニングと開披処置」、水損固着文書開披に関わる研究会、2023年11月、九州国立博物館

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. (共著) 執筆者一同(東野将伸他4名)「書評へのリプライ」、『歴史科学』253号、2023年5月、58-63頁(東野担当箇所: 60-61

頁)

2. (研究展望1項目の分担執筆)「都市」、『史学雑誌』132-5号(2022年の歴史学界一回顧と展望一)、2023年5月、134-136頁
3. (図録解説執筆)『令和5年度企画展 池田家文庫絵図展「岡山藩の郡・村と藩政」』、岡山大学附属図書館、2023年10月、22頁(東野将伸「解説」・「出展資料解説」1-18頁)
4. (古文書目録データ公開) 実践演習(古文書演習) 受講生・東野将伸「岡山大学附属図書館所蔵 菊池家文書(追加寄贈分)目録」(岡山大学学術成果リポジトリ)、2024年2月
5. (古文書目録データ公開) 実践演習(古文書演習) 受講生・東野将伸「岡山大学附属図書館所蔵 湯楨家文書(追加分)目録」(岡山大学学術成果リポジトリ)、2024年2月

本田 晃子

著書

1. 本田晃子『革命と住宅』ゲンロン、2023年9月、243頁
2. 松田達、寺田晶子、横手義洋、林要次、川勝真一編著『建築思想図鑑』学芸出版社、2023年9月、255頁(本田晃子、担当章「ロシア・アヴァンギャルド」99-102頁)
3. 山本理顕、松山巖、布野修司編著『都市美 第3号』河出書房新社、2023年10月、238頁(本田晃子、担当章「住宅の革命／革命の住宅 ソ連における社会主義住宅の実験」48-67頁)

研究発表

1. 「20世紀が夢見た都市：都市計画と都市表象の系譜」、建築フォーラム「架空の都市の歩きかた」、2023年9月2日、谷口吉

郎・吉生記念金沢建築館

2. 「建てることは戦うこと——ソ連映画における団地建設者たち」、シンポジウム「各国映像メディアにおける団地表象の比較研究」、2024年3月9日、早稲田大学戸山キャンパス

松岡 弘之

著書

1. 西栗倉村教育委員会『西栗倉村埋蔵文化財発掘調査報告1 智頭往来志戸坂峠越（歴史の道）村内遺跡保存活用総合調査』西栗倉村教育委員会、2024年3月、86頁（松岡弘之、第4章第3節「近代の因幡街道と志戸坂峠」第4節「年表」第5節「関係資料」第6節「附図」、41-60頁）

論文

1. 「公文書管理法とハンセン病問題—菊池恵楓園蔵「患者身分帳」をめぐる—」、『岡山大学文学部紀要』76号、2023年12月、50-60頁

研究発表

1. 廣川和花・松岡弘之・野上玲子・高野弘之「昭和初期における九州療養所の「軽快退所」事例の考察」、第96回日本ハンセン病学会学術大会、2023年5月18日、北海道大学(ハイブリッド)
2. 松岡弘之・廣川和花・野上玲子・高野弘之「自治会成立前後における九州療養所の「逃走」事例の考察」、第96回日本ハンセン病学会学術大会、2023年5月18日、北海道大学(ハイブリッド)
3. 「コメント：これからの議論のために」、第17回ハンセン病市民学会交流集会in鹿屋・分科会B「ハンセン病療養所の公文書の取り扱いについて考える」、2023年

5月21日、リナシティかのや

4. 「「患者身分帳」は「史料」なのか—公文書管理法とハンセン療養所」、岡山地方史研究会7月例会、2023年7月22日、岡山大学
5. 「金宰亨報告「韓国ハンセン病/ハンセン人資料のアーカイブ化の現状」へのコメント」、歴史と史料の中の優生学：日本と韓国のケースより、2023年10月7日、立命館大学
6. 「ハンセン病療養所と公文書管理法—「未登録文書」の継承基盤構築をめぐる諸課題」、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第49回全国（東京）、2023年11月30日、駒澤大学
7. 「西日本豪雨と岡山史料ネット—現状と課題—」、第5回歴史文化資料保全西日本大学協議会、2023年12月18日、オンライン

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「文化資源における「当事者主権」について」、『ライブラリー・リソース・ガイド』45号、2023年11月、92-93頁

松村圭一郎

著書

1. 松村圭一郎『旋回する人類学』講談社、2023年4月、256総頁
2. 松村圭一郎『所有と分配の人類学 エチオピア農村社会から私的所有を問う』ちくま学芸文庫、2023年11月、469総頁。
3. 松田素二編『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社、2023年4月、356総頁（松村圭一郎、第1章「民族と文化」18-30頁）
4. 佐久間寛編『負債と信用の人類学 人間経済の現在』以文社、2023年5月、390総

頁(松村圭一郎、第4章「負債と労働の関係 グレーバーの『負債論』と『ブルシット・ジョブ』をつなぐもの」157-183頁)

5. 斎藤幸平・松本卓也編『コモンの「自治」論』集英社、2023年8月、288総頁(松村圭一郎、第2章「資本主義で「自治」は可能か? 店がともに生きる拠点になる」49-77頁)

論文

1. 「野蛮と文明の所有論」、『文明と哲学』16号、2024年3月、225-240頁

研究発表

1. 招待講演「なぜ「くらし」のアナキズムを考えるのか?」、日本精神障害者リハビリテーション学会第30回岡山大会、2023年12月2日、倉敷芸文館(オンライン)

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 評論「働くこと、休むこと」、『学鑑』120巻4号(2023年冬号)、2023年12月、9-12頁
2. 評論「人間であることが困難な世界で」、『世界』977号(2024年1月号)、2023年12月、156-159頁
3. 「エッセイ 他者を通して想像力を豊かにする」、『季刊 理想』150号(2023年冬号)、2023年12月、13-14頁。
4. 「書評 河崎秋子著『ともぐい』」東奥日報ほか、2024年1月
5. 「海をこえて」『群像』第78巻7号、2023年7月号、135-140頁(毎月連載中)

光本 順

著書

1. 津山市史編さん委員会編『新修津山市史』通史編 自然風土・原始古代、津山市、2023年12月、645頁(光本 順「陶棺」327-345頁)

論文

1. Tema, E., Santos, Y., Trindade, R., Hartmann, G.A., Hatakeyama, T., Terra-Nova, F., Matsumoto, N., Mitsumoto, J., Gulmini, M. Archaeointensity record of weak field recurrence in Japan: new data from Late Yayoi Kofun ceramic artefacts. *Geophysical Journal International*, 233(2). May 2023, pp. 950-963.
2. Tema, E., Hatakeyama, T. Ferrara, E., Davit, P., Polymeris, G. S., Mitsumoto, J., Matsumoto, N. Insights on the firing temperature of ancient ceramic coffins through a multi-analytical approach: The case of the Sada Nishizuka Kofun, Japan. *Journal of Cultural Heritage*, 66, March 2024, pp. 265-270.

研究発表

1. 光本 順「岡山県南部における弥生時代後期の形象遺物群」考古学研究会第69回総会・研究集会、2023年4月22日、岡山大学
2. 光本 順、山口雄治、ライアン・ジョセフ「LiDARによる造山古墳墳丘調査」シンポジウム文理融合分析による造山古墳の総合的研究、2023年6月4日、岡山大学
3. 光本 順「佐良山古墳群におけるドローン測量の成果について」令和5年度第3回美作学講座(第40回津山市文化財調査報告会)、2024年2月10日、美作大学
4. 光本 順、ライアン・ジョセフ、清家 章、山口雄治、久世宏明、本郷千春「UAVデータ解析による巨大前方後円墳の周濠探査」The 26th CERES Environmental Remote Sensing Symposium、2024年2

月15日、千葉大学

宮崎 和人

論文

1. 「可能性と否定—動詞「限る」の否定形—」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』57、2024年3月、59-73頁

学会ワークショップ

1. ワークショップ「日本語のモダリティ」(「仁田のモダリティ論」(仁田義雄)、「モダリティ研究史から見た階層構成的モダリティ」(益岡隆志)、「言語行為から見た日本語のモダリティ」(金水敏)に対する指定討論)、日本語文法学会、2023年7月1日、オンライン

山本 秀樹

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「コラムE 熊沢蕃山」、『岡山県立博物館2023年度(令和5年度)テーマ展 正宗敦夫と正宗文庫』、2023年9月、42頁

RYAN Joseph Richard

研究発表

1. Guidorzi, L., Vigorelli, L., Quaranta, R., Fissore, E., Nozaka, T., Seike, A., Ryan, J., Mitsumoto, J., Matsumoto, N., Gulmini, M., Magalini, M., Lo Giudice, A., Re, A. 「Micro-Computed Tomography for the analysis of Japanese pottery」, XII Congresso Nazionale Associazione Italiana di Archeometria, 2023年4月19日、Palermo, Italy (ポスター)
2. 「Recent discoveries from ancient Kibi: LiDAR surveying of ancient mounded tombs in Japan」, Science

and Archaeology in Italy and Japan: A Transdisciplinary Methodology (Italian School of East Asian Studies (ISEAS) Workshop)、2023年5月9日、オンライン

3. Magalini, M., Guidorzi, L., Vigorelli, L., Quaranta, R., Fissore, E., Nozaka, T., Seike, A., Ryan, J., Mitsumoto, J., Matsumoto, N., Gulmini, M., Lo Giudice, A., Re, A. 「Micro-Computed Tomography applied to the study of Japanese pottery」, Technart, 2023年5月7日、DF - Departamento de FísicaLIBPhys-UNL(ポスター)
4. 「欧米における騎馬民族征服王朝説の展開」, 東方ユーラシア馬文化の研究、2023年5月19日、オンライン
5. 「Unraveling the threads of production and circulation: Digital microscopy of organic threads found on the iron burial goods of Nishimotomezuka Kofun」, 日本考古学協会第89回総会、2023年5月28日、東海大学
6. Santos, Y., Labate, M., Magalini, M., Pellis, G., Davit, P., Matsumoto, N., Nozaka, T., Seike, A., Ryan, J., Mitsumoto, J., Lombardo, V., Lo Giudice, A., Tema, E., Gulmini, M. 「From sherds to web: the Be-Archaeo Experience」, Emac - European Meeting on Ancient Ceramics 2023年6月14日、Pisa, Italy
7. 「弥生時代の鉄製武器の製作地をめぐって」 嶺南大学校考古学研究室セミナー、2023年11月1日、大邱、韓国

ルヌウ・ロイック

論文

1. Renoud, Loïc. Temps aux niveaux initiaux : visuels et activités. *Revue japonaise de didactique du français*, 18 (1&2), 2023, pp. 148-151.
2. Renoud, Loïc. Vidéos d'interactions orales spontanées : activités et objectifs. *Revue japonaise de didactique du français*, 18 (1&2), 2023, pp. 269-274.

研究発表

1. « Microgénèse de la parole et implications pour le matériel grammatical », 日本フランス語教育学会2023年度大会、2023年5月14日、東京 大東文化会館
2. “Reproducing spontaneous oral interactions for a first-person perspective on grammar. Material for Japanese university students in French as a Foreign Language”, Best Practices in Second Language Education、2023年9月7日、Istanbul - Altınbaş University
3. « Sémiotique d'un matériel grammatical vidéo visuel », CAP 2023 - 5e Congrès de la Commission Asie-Pacifique (FIPF) & 18e séminaire régional de recherche francophone (CREPAF/OIF)、2023年12月12日、Singapore - National University of Singapore
4. Renoud, Loïc, Nakamura Noriko, « Mise en commun et échanges : références bibliographiques sur les temps verbaux » 「動詞の時制に関する文献について、共有と交換を目指す」、フランス語教授法研究会第6回、2023年12月17日、東京 東京国際フランス学園

5. « Parcours, contexte, activités professionnelles: enseigner le français à l'université au Japon », 特別なセミナー、2024年3月7日、ボルドー ボルドーモンテニユ大学

呂 建輝

論文

1. 「日本語における外来語受容に関する一考察：英語-ingの語彙「～(イ)ング」を中心に」『岡大国文論稿』51号、2023年10月、50-65頁
2. 「外来語の連濁について」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』56号、2023年12月、17-36頁

研究発表

1. 「日本語語彙学習システム「PC版 Vocabulary Battlers β版」の公開」、第十一回桃花言葉研究会、2023年6月3日、オンライン開催
2. 「日付語彙の史的変遷に関する一考察」第十三回桃花言葉研究会、2023年8月5日、オンライン開催
3. 「連濁からみる近世外来語の受容」第十四回桃花言葉研究会、2023年9月2日、オンライン開催
4. 「混種語「年月日(ねんがっぴ)」の成立について」日本近代語研究会2023年度秋季発表大会、2023年10月21日、オンライン開催
5. 「日本語語彙学習アプリ「デジタル版 Vocabulary Battlers」の開発と課題」日本語教育学会2023年度秋季大会交流ひろば、2023年11月15日、山形テルサ
その他(翻訳、事典項目、書評等)
[ソフトウェア開発]

1. 日本語語彙学習アプリ「Vocabulary Battlers β 版」ver β-0.20、2023年5月、プロジェクトVocabulary Battlers公式HP
 2. 中国漢字学習アプリ「漢字ドリル(かんどり)」ver 0.30、2024年1月、プロジェクトVocabulary Battlers公式HP
 3. データベース構築ツール「CSV Carpenter」ver 1.00、2024年3月、プロジェクトVocabulary Battlers公式HP
- [招待講演]
4. 「伝わる日本語とは」、2023年11月23日、上海中医薬大学

和田 郁子

著書

1. 野田仁編『翻訳される信頼』（イスラームからつなぐ3）東京大学出版会、2024年3月、222頁（和田郁子「交易品としてのインドの織物とその「翻訳」」75-93頁）

論文

1. 「オランダ東インド会社とサントメ鯨皮—17-18世紀の対日本貿易と南アジア—」『西南アジア研究』No.97、2023年12月、23-50頁

研究発表

1. 「17-18世紀南アジアにおける東インド会社の現地雇用船員」2023年度東洋史研究会大会、2023年10月29日、京都大学文学研究科

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 真下裕之監修（二宮文子・真下裕之・和田郁子訳注）「アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注（12）」『紀要』（神戸大学文学部）第51号、2024年3月、1-24頁